

オンライン作文・小論講座

文章博士

添削実例 - その2

<http://kangaeru.org/bunshohakase>

この添削実例はご本人の許可を得て作成したものです。
通常の添削とちがい、当講座では1作品を3回書き直す方式をとっているため、
作品の完成度が高くなることが期待されます。作品が変化向上していくようす、
詳しい添削レポートをごらんください。

制作著作：考える学習をすすめる会

<<第 1 回目の添削>>

伊東香菜子さんへ

はじめまして。

文章博士添削アドバイザーの竹下です。

今回伊東さんの添削を担当させていただくことになりました。

どうぞよろしくお願いたします。

一通目の小論文を読ませていただき、たいへん感心しました。

伊東さんのまじめでがんばりやさんの性格がよく表れていますね。

私自身は中学時代吹奏楽部でしたが、熱心ではなく、部活に行くことは行くけどちらちらとお気楽に過ごしておりましたので、

「おー、青春！」(おばさんくさいな・・・)

と伊東さんの作品がとてもまばゆく感じました。

「クラブ活動」

中 2 伊東香菜子

春から一年生が入ってきて今まで教えてもらっていたけど今は教える方になって、もうすぐ 3 年生も引退していなくなるし、これから私たちが上に立っていかないとと思うとなんとなく不安です。前に 3 年生が注射をして部活に来れない日があってその日は 2 年の私たちと一年生だけの練習でした。

その日は一年も同じメニューでやってみただけど全然わかってなくてバラバラでした。体操の時、すごく一年の声が多かったので一回 2 年生は全員だまってみるとほとんど声が出てなかったです。

最後は 2 年生だけで 5 対 5 をやりました。いつもは 3 年生にまざってっていたけど 2 年だけですとあまりまとまりがなくていつもいっしょにやってくれた 3 年生がどんだけ私たちがひっぱってってくれたのかがわかった気がしました。

今は一年生もまだ全然できてないけど、出来るだけわかりやすく教えてあげられるように、一年生がやるべきことをまだ 2 年生がやったりするからそういう

のを一年がすぐ動けるようになって行くようにしていきたいです。

今度は私たちが一年生を引っ張っていく事が出来るように厳しく、でも優しく接していきたい。だから文句ばかりいってないでそれをちゃんと注意できるようにになっていければいいな。

ところで、私、一つこまってしまったことがありました。

それは・・・伊東さんが何部にいらっしゃるかわからなかったことです。

伊東さんはこの文を書いた人だから、もちろん何の部活について書いたかわかっていますね。でも私にはそれが書かれていないからわからないんです。

他人に見せるつもりがない日記なら、自分だけがわかる文でよいでしょう。ところが作文は他の人が読むことを予定して書かなければいけません。あなたのことを何も知らない人が読むんです。だからその人たちがわかるように書いてあげるのが親切ですね。

そのためには、

始めの部分に、何部に入っているか、書いてください。

エピソードに、私のようなスポーツ音痴（おんち）にでもようすがわかるような、あったままの行動やセリフを入れてみてください。

それから、これが一番たいせつなことなのですが、この文を書いて「自分がいいたいことはこれなんだ！（結論）」があるはず。

その「結論として言いたいこと」を紙に書きだして、

これにすべてのことがむすびつくようにそのほかの書くことをメモしていきます。

メモしたことの書く順番をきめて矢印（やじるし）をつけていきます。

書く前にこれだけ下準備をしておく、それを目で追いながら書いていけばいいので、とてもラクに書けますよ。ただし、自分をぜんぜん知らない人が読むことを忘れないでね。

伊東さんの作文をもとにこの準備をすると次のようになるかな。

3年生が引退するので、私たちが1年生を引っぱらなくてははいけない

1年生を教えるって大変なことだ

今までで心に残っている場面 3年生が注射。1・2年だけの練習の時

…

…

…

私の部 - (バスケット部(かな?))紹介...誰にでもわかるように

ここまで準備してから書き始めるようにしましょうね。

ここまでやったら、私が伊東さんだったとして書くと次のようになるかな。

1) 伊東さんが 部の上級生として、不安を感じたこと

<例>

私は、 部に所属しています。三月まで教わる側でしたが、四月から新一年生が入ってきたので、今は教える側になりました。もうすぐ三年生も・・・

2) その不安を感じる原因となったエピソード

<例>

以前、三年生が予防接種で部活に来られず、私たち二年生と一年生だけの練習になったことがありました。

その日は一年生も同じメニューでやってみましたが、ぜんぜんわかってなくてバラバラでした。体操の時、一年生の「1, 2, 1, 2」というかけ声がよく聞こえなかったので、一度二年生全員がだまってみたら、一年生はほとんど声が出ていませんでした。

最後は二年生だけで5人对5人の試合をやりました。二年生だけだと、三年生とまざってやっているときにくらべあまりまとまりがなく、パスもうまくまわりません。いつもいっしょにやってくれていた三年生が、どれだけ私たちをひっぱっていつてくれていたのかが、よくわかりました。

青い部分はその例として、私が考えた部分です。

伊東さんがじっさいの声やあったこととおきかえて下さいね。

本当は、「同じメニュー」も具体的に例で示したかったのですが・・・悲しいかな、運動部経験のない私には思いつきませんでした。

光景が想像しやすいように、どんなメニューでどんなふうに一年生がわかっていなかったか、具体的に書いてみてくださいね。

3) 良い先輩になって、その不安を乗り越えようとする、伊東さんの決意

<例>

でも、不安がっていても仕方ありません。今度は私たち二年生が一年生を引っぱっていかねばならないのです。

一年生はまだ技術的な事がぜんぜんできていないので、できるだけわかりやすく教えてあげたい。そして、一年生がやるべきこと、たとえば、**や、**
などは、二年生がやる前に、言われなくてもさっとできるように注意したいです。

私はこれから、後輩たちが信頼してついてきてくれような、優しさときびしさをあわせ持った先輩になるように頑張ります。

青い部分はやはり私のつけたしです。

事実にあうように、書き直してください。

最後の一文は、「(伊東さんの目ざす理想の先輩像)になりたいです」または「なるよう頑張ります」で結ぶと、もっと伊東さんのまじめでがんばりやさんの長所がアピールできると思いますよ。

さらに輝きを増した次回の作品、楽しみにお待ちしております。

文章博士 添削アドバイザー

竹下 加奈子

<<第2回目の添削>>

伊東香菜子さんへ

こんにちは。竹下です。
体調をくずされていたとのこと。もうすっかり元気になりましたか。
テストがやっと終わったところで二回目の課題文作成。
たいへんだっただしょうが、よくがんばってくださいました。
ありがとうございます。

文頭に入っている部名をはっきり書き、最後は理想の先輩像でしめてくださったことで、ぐっと伊東さんの決意が伝わりやすくなりました。
そのほかにも一通目からかわって良くなったところがあちこちありましたね。

次は、もっと良くするために、それぞれのシーンが、読む人の頭の中で生き生きと動き出すような文章を目指して、がんばってみましょうか。

生き生きした文章を書くヒントを少しあげますと、
心に残った会話を書く
具体的な(ありのままの)行動・しぐさ・人の表情を書く
喜怒哀楽(きどあいらく)などの心の動きを書く
などがあります。

以下、伊東さんの文で私が「生き生きさせたいなあ」と思う部分に線をひっぱり、どんな内容を書き加えたら良いかを赤字で書いてみますね。

「クラブ活動」

中2 伊東香菜子

私はバスケットボール部に所属しています。今までは先輩もいて教えてもらってたけど4月からは1年生が入ってきて、これからは自分達が先輩となって1年生を引っ張っていかないとはいけません。(**ここがはっきりした決意にかわりました。いいですね。**)もうすぐ3年生も引退していなくなります。以前、3

年生が予防接種で部活に来られず私たち2年生と1年生だけの練習になったことがありました。

その日1年生も2年生と同じメニューで練習しました。まず校庭を一周してから体操です。体操の時、1年生の声（どんな声でしょう。「1、2、1、2・・・」など具体的に書いてみてくださいね）が少なかったので2年生は1回だまってみました。すると1年生の声はすごく小さかったです（このとき2年生同士で言ったこと、1年生に言ったことなどがあれば具体的な会話として書いてみましょう）。ほかの練習（何の練習かな）のやり方とかを教えても本当にわかっているのかよくわからなかったり（一年生のどういう行動から、「わかってないんじゃないか」と思ったのかしら）大変でした。

最後に2年生だけでチームを作って試合をしました。いつもは3年生にまざってやり3年生が指示をしたりしてまとめてくれたりしていました。けど（けれど）3年生なしではまだまとまりがなくばらばらという感じ（どうしてそう思ったのかな。パスがうまくまわらないとか、守備がすぐ破られるとか。まとまっていない様子を具体的に書いてみましょう）で、3年生が今までどんだけ（どれだけ）私たちが引っ張ってくれてたのかわかった気がしました。（この日の練習について、2年生同士で話し合った会話、3年生に報告した会話などを書いてみると良いのでは。3年生は何か言っていないでしてでしょうか）

今まで先輩たちが教えてくれた事注意してくれた事を思い出して教えてあげられたり、後輩がすべきこと（どんなことかしら？）を注意しなくてもすぐ動けるようにそれも教えてあげたいです。

私はこれから、後輩たちが何でも聞いてくれるようなしゃべりやすい先輩で、でも注意すべき事はちゃんと（きちんと）注意したりできる、文句を言って終わらない先輩になりたいです。

伊東さんの頭の中では、一年生の声が全然聞こえなかったシーン、2年生同士の試合のシーン、生き生きと再現することができますよね。

頭の中のシーンをそのままとり出して見せることができたなら楽なんですけれど、今の科学の力ではまだもう少し（？）無理そう。

他の人に伝えるためには、文章にしなければなりません。

7カ所に赤を入れましたが、全部書きたすのは大変。だからこのうちの2カ所くらいにしぼって、伊東さんが書き加えやすいところをふくらませてみましょうか。今までとは生き生きさがぜんぜんちがってくると思いますよ。

自分の頭の中のシーンを文章にすることは、慣れないうちはとてもめんどくさいことだと思います。

でも、きっと、バスケの練習といっしょ。

しょっちゅう練習していると、いつの間にか、ぐっと上達しているはずですよ。

そして、自分の書いた文章で読む人の心を動かすことができたとき、バスケの試合に勝ったときと同じくらいの喜びを感じることができること、私がお約束します。

では、まじめでがんばりやさんの伊東さんの、三通目を楽しみに待っています。バスケの練習と同じく、気合いを入れて書いてみてくださいね。

たいへん暑い日が続きますので、お体に気をつけて。

文章博士 添削アドバイザー

竹下 加奈子

<<第3回目の添削>>

伊東香菜子さんへ

こんにちは。竹下です。

もうすっかり体調もかいふくなさったようで、良かったですね。

毎日あついですが、勉強にクラブ活動にがんばっている伊東さんのすがたが思
いかぶようです。

さて、三通目の課題文を送ってくださって、ありがとうございました。

三カ所も書きたして下さったんですね。なかなかたいへんだったかな？

でも、こうやって頭をひねるたび、伊東さんの実力が上がっていきますからね。
今回一回の書き直して、実力点3ポイントアップ！自信をもってください。

ぜひ、一回目の作文と今回の作文を、読みくらべてみてくださいね。

伊東さんが頭をひねって下さったおかげで、ぐっと生き生きした文章になりました。
書いた本人にはわかりにくいかもしれませんが、他の人が読んだとき、ずっと、
シーンを思いうかべやすい文章になったのです。

最初の段落と最後の段落にはっきりとした決意を書いて下さったことで、伊東
さんのまじめでがんばりやさんの長所も、もっとアピールできるようになりました。

それでは、細かい仕上げをしていきましょうね。

「クラブ活動」

中2 伊東香菜子

私はバスケットボール部に所属しています。今までは先輩もいて教えてもら
ってたけど（いしましたが、）4月からは1年生が入ってきて（きたので）、
これからは自分達が先輩となって1年生を引っ張っていかないといけません。
もうすぐ3年生も引退していなくなります。以前、3年生が予防接種で部活に
来られず私たち2年生と1年生だけの練習になったことがありました。その
日1年生も2年生と同じメニューで練習しました。まず校庭を一周してから体
操です。体操の時、「1, 2, 3, 4」につづく「5, 6, 7, 8」という一
年生の声（ぐっとわかりやすくなりましたね！）が少なかったので、2年生

は一回黙ってみるとやっぱり一年生の声はすごく小さかったのです。ほかのシュートやディフェンスの練習（ いいですね! ）のやり方などを教えても全然できていなくて、本当にわかっているのかなぁと思いました。最後に2年生だけでチームを作って試合をしました。いつもは3年生にまざってやり3年生が指示をしてくれたりまとめてくれていました。けれど2年生だけだと全体的になんとかまとまりがなく、ばらばらという感じで、3年生が今までどれだけ私たちを引っ張ってくれてた（ くれていた ）のかが解りました。

後輩たちには、今まで先輩たちが教えてくれた事、注意してくれた事を思い出して教えてあげられたり、（ あげたいです。 ）それから、後輩がすべきこと、たとえばボールを出したり直したりする（ 具体的でいいですね! ）のを（ ことなどを ）注意しなくてもすぐ動ける（ できる ）ように教えてあげたいです。

私はこれから、後輩たちが何でも聞いてくれるようなしゃべりやすい先輩で、でも注意すべき事はちゃんと注意できる、文句を言って終わらない先輩になりたいです。

最後に2年生だけでチームを作って試合をしました。いつもは3年生にまざってやり3年生が指示をしてくれたりまとめてくれていました。けれど2年生だけだと全体的になんとかまとまりがなく、ばらばらという感じで、3年生が今までどれだけ私たちを引っ張ってくれてた（ くれていた ）のかが解りました。

後輩たちには、今まで先輩たちが教えてくれた事、注意してくれた事を思い出して教えてあげられたり、（ あげたいです。 ）それから、後輩がすべきこと、たとえばボールを出したり直したりする（ 具体的でいいですね! ）のを（ ことなどを ）注意しなくてもすぐ動ける（ できる ）ように教えてあげたいです。

私はこれから、後輩たちが何でも聞いてくれるようなしゃべりやすい先輩で、でも注意すべき事はちゃんと注意できる、文句を言って終わらない先輩になりたいです。

いかがでしょうか。赤い部分が訂正と追加。ピンクの部分がよくなったところです。

文章を書くということはとても頭を使うことで、慣れないうちはなかなかたいへんです。

でも、バスケと同じで練習すればするほど確実にじょうずになります。そして、バスケの練習を続けると運動能力全体があがるように、文章を書く練習を続けると、「考える力」そのものがきたえられていくのです。

ですから、これで第1回目の講座は終了しますが、文章を書く練習はずっと続けていってくださいね。

今後のアドバイスとしては、まず読書をする事。夏休みですので、伊東さんが好きな分野の本から、毎日読んでみてくださいね。

次のおすすめは、新聞の投書写しです。毎日投書らんを見て、伊東さんが一番きにいった投書を一つ選び、一字一句正確に書き写すのです。わからないことは、辞書でしらべたり、おうちの方に意味を聞いたりしてください。書いたものは、お母さんに見ていただくといいでしょう。

なれてきたら感想を書いてみてください。一人でするとつまらないので、お母さんと感想を見せ合いっこしてみましょう。同じ投書を読んでもちがうことを感じているのがわかり、びっくりするかもしれませんよ。

どの夏もそうですが、中2の夏も、一度きり。もう二度と来ません。バスケも遊びも勉強もとことんがんばって、思いっきり青春してみてくださいね（
またもやおばさんくさいかな・・・）。

どうもありがとうございました。

文章博士添削アドバイザー
竹下 加奈子

お母様へ

最終回にして初めて直接お便り書かせていただきます。

香菜子さん（偶然私の名前と読みが同じですね）には、私のつたないアドバイスに懸命に応えて格段の進歩を見せていただき、感謝の念にたえません。

香菜子さんは今回の講座で、「作文は、自分が読んでわかるだけではだめだ。他の人に、自分の思っていること・考えていることをきちんと伝えられるものでなければならない」ということを、理解してくださったことと思います。

これは格段の進歩ですが、理解しただけで終わってはあまり意味がないので、実際に伝える練習を続けられるよう、是非、励ましてさしあげてください。

そのためのアドバイスを、少々ですが本文でさせていただきました。新聞の投書写しなどは、是非ともおうちの方のご協力が必要です。誤字・脱字などは、細かくチェックしてさしあげてください。でも、がんばって書くのですから、大きな赤丸もあげたいですよ。パーフェクトな写しのときは、花まるがいいかもしれません。

本当は、慣れたら要約に挑戦していただきたいのですが、それを書くに香菜子さんがひいてしまったらいけないと思って、書きませんでした。

感想を親子で書き合うのは、親子のコミュニケーションにもなりますので、たいへん良いことだと思います。お母様に先に書かれたのでは、さぼりにくいですね。

最後になりましたが、香菜子さんの三回の作文提出にご協力いただいたこと、本当に感謝いたします。

香菜子さんの中2の夏休みが充実したものになること、そしてご家族と楽しい思い出をたくさん作られることをお祈りして、いったんお別れとしたいと思います。

竹下 加奈子

ご参考：文章博士講座ウェブサイト

<http://kangaeru.org/bunshohakase>